

学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.183

(財)日本学校保健会

豊かな心を持ち

生涯を通して逞しく

生きる子どもの育成

—家庭・地域との連携を通して—

第40回全国学校保健研究大会の標語



登校拒否とは

(財)日本学校保健会副会長 加藤 増夫

昭和30年代の半ば、わが国で「登校拒否」の問題が注目されはじめて以来30年あまりが過ぎ、文部省の学校基本調査結果(昭和63年度)を見ますと全国の小・中学校の児童生徒のうち、42,000人強が「登校拒否」になっており、事態は深刻化しております。

この調査は、年間通算50日以上長期欠席者のうちで「学校嫌い」を欠席理由とする児童生徒を「登校拒否」として捉えての事であり、文部省では「生徒指導の健全育成をめぐる諸問題—登校拒否問題を中心に—」の中で、「主として何らかの心理的、情緒的な原因により、客観的に妥当な理由が見いだせないまま児童生徒が登校しない、あるいはしたくてもできない状態である」と述べております。

登校拒否は、児童生徒自身がそれを起こしやすい要因をもち、それが何らかのきっかけによって発現すると考えられますが、その直接のきっかけは、小学生では「家庭生活での影響」、中学生では「学校生活での影響」とするものが多く、「学校生活での影響」の内訳では、「学業不振」、「友人関係をめぐる問題」、そして「家庭生活での影響」の内訳では「親子関係をめぐる問題」、「家庭の生活環境の急激な変化」がそれぞれ多くなっているようです。

さまざまな原因から、さまざまな態様を現わす「登校拒否」の問題に、一つの定まった解決策は見い出せません。登校拒否になる児童生徒は、その多くの場合において病気の時と同様に前兆が現われます。そして、それに対する初期の対応が遅れば遅れるほど、問題は深刻化し回復に要する時間が長くなります。

教師・保護者をはじめ、学校保健関係者が手を携え一丸となって、児童生徒の示す前兆に気づき、一刻も早く適切な対応をする事が最も肝要なのではないでしょうか。

目次

登校拒否の実態と その対応について…	2
小学校の指導事例…	3
中学校の指導事例…	4
ベトナムスクールの紹介…	5
Q&A・フリースクール とは…	6

登校拒否の実態について

東京都教育庁指導部主任指導主事 石 井 明

こゝ数年、登校拒否児童・生徒が急増しており、今日の大きな社会問題になっている。

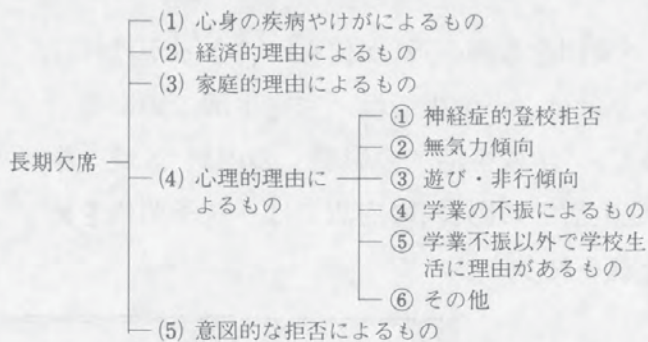
文部省と東京都教育委員会が発表した昭和63年度登校拒否児童・生徒（「学校ぎらい」を理由として、年間50日以上欠席した者）の調査結果をみると、全国では42,385人、東京都は4,289人と、いずれも過去最高を記録している。

東京都教育委員会では、こうした「学校に適應できない長期欠席の児童・生徒」の実態の究明と、その解消をめざしての具体的な対策を検討するため、平成元年5月に「学校不適應検討委員会」を設置し、平成2年3月に報告書をまとめた。

以下、報告書の中から主要な点を述べる。

1. 長期欠席と登校拒否の類型

現在の登校拒否は、その要因や背景が多様化、複雑化し、以前に比べ分類が困難な場合が多くなっている。そこで、本委員会は学校不適應という観点から、長期欠席に陥りやすいタイプにもいろいろあることを考慮し、その中に登校拒否と、そうでないものを識別できるように、下の表のように分類し、類型化した。（表の(4)と(5)が登校拒否の類型である）



2. こゝ数年の登校拒否の実態と背景

(1) 最近の傾向として、従来のような神経症的な登校拒否といった典型的なケースに加え、無気力ですぐあきらめてしまう、あるいは登校拒否に陥っても、表面的には本人にあまり葛藤がみられないといったケースが増加しているなど、要因が複雑で分類が困難な場合が多くなっている。

(2) こうした従来にないタイプが生み出される背景には、学校・家庭・地域社会において、友達との接し方がわからないなど、対人関係処理能力が発達段階に応じて適切に育っていないことがあげられる。

(3) 学校教育の面では、学業不振に加え、学校生活における友人関係や、教師との人間関係等に起因する問題が増えてきている。

(4) 家庭教育の面では、少子化や核家族化が進むなか、家庭での人間形成上大切な経験（困った時の対処の仕方や、欲求が衝突した場合の処理の仕方など）を身をもって教える機会が乏しくなっている。

3. 登校拒否への対応

本委員会は、登校拒否への対応について、次の3つの視点から検討を行った。

- ① 現在あるいは既に起こっている問題の対応
- ② 早期発見、早期指導を含めた初期対応
- ③ 健全育成の問題を含めた予防的対応

報告書では、これらの視点を考慮に入れ、学校、家庭、地域社会、行政に対する提言を次のようにまとめた。

	提 言	既 に 起 こ っ て い る 問 題 へ の 対 応	初 期 対 応	予 防 的 対 応
(1) 学校に対する提言	不適應の早期発見・早期指導 子どもの声に耳を傾ける教師の姿勢 「いじめ」「体罰」の根絶 授業の改善と工夫 存在感もてる学級づくり 意欲をもたせる評価の工夫 将来に希望をもたせる指導の展開 登校拒否の理解と指導方針の確立 子どもの心を開かせる相談体制の充実 子育てネットワークの強化	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
(2) 家庭に対する提言	愛情と信頼に基づく子育て 自立心の育成 温かな家庭の雰囲気づくり 親子が共にする体験活動の重視 基本的な生活習慣の育成 子どもの人格の尊重 豊かな人間関係の育成 知育偏重の意識の是正 教師や他の保護者との連携 地域社会への参加	○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
(3) 対地域社会に 対する提言	地域ぐるみの子育て ふれあいネットワークの充実 望ましい生活環境の整備 関係機関の連携に基づく相談体制の充実 地域活動への参加の促進	○	○	○ ○ ○
(4) 行政に対する提言	「適応指導のための学級」の設置 民間機関の活用と相談機関の連携強化 ライフステージに応じた教員研修の重点化 各学校への相談担当の教師の配置及び相談室の設置 教育相談員の資質向上 「治療相談、研究のための総合対策センター」の設置	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○

S子との出会いを通して

狛江市立狛江第六小学校養護教諭 出 町 一 恵

出会いとプロフィール

S子は現在四年生になる。S子との出会いは、一年に入学して二週間目の頃、玄関で母親にしがみついて泣いているところを通りがかり、声をかけたことに始まる。母親は困りはて、私のかけた声などには耳をかそうともしないS子。それで母親もいっしょに保健室にきてもらい、S子や母親の話をきく。S子の両親は教育関係の仕事をしており共働。三人兄弟の末っ子で、保育園では体も大きく、常にリーダー的な存在で、母親を困らせることもなく過ぎてきた。

保健室登校から不登校へ

この日から全く教室に行こうとせず、保健室へ直行。始めはいやいやながらの保健室登校も、送ってきた母親との別れはできるようになった。ランドセルは持ってきたが勉強はせず、私の机の前に座り、おしゃべりをしたり、絵を描いたりして過ごす。一方担任とは、入学してからの様子など話合いを持つ。その中で分ったことは、クラスの男子と些細なトラブルがあり、前にも母親につきそわれてきたことがあるなどで、差し当っては、S子の心をときほぐすべく様子を見ることにした。

担任も保健室にきてコンタクトを取るようにした。その内どんどん退行現象が著しくなり、母親に対する執着が激しくなっていた。S子のもらした「S子ちゃん、お母さんを食べてしまうんだ」という言葉が、この子の状態を象徴的に表わしていた。表面的にS子が教室に行きたくない理由（たびたび変化する）の奥にS子と母親との関係、さらに父親との関係、それにS子自身の性格などが絡み合っていると思われ、担任も私も長引くと判断し職員会議で経過報告をし、職員の共通理解をえることにした。

その場で確認できたことは、① 今回の事例は、S子の自立の過程の一つとして考える。② 現在のS子の状態から、S子に対して教室に行きなさいとは言わない。③ その他は各教師の個性で接すること。④ 担任だけが抱えるのではなく組織としての受け皿を作ること、などであった。また、退行現象の激しくなった頃より、母親とノートによる連絡も始めた。これはS子が教室に戻り、少し落ち着くまで続けたが、S子を含め、お互いの理解を深めるためにとても手助けになった。退行現象はますます激しくなり

担任も拒否、顔つきも険しく、ベッドにもぐり込む時が多くなり、私の誘いにもものらなくなってきた。そして連休、そのまま不登校となる。

再び保健室登校、そして教室へ

登下校の間、S子は母親の職場にいき、一緒にいるといった生活をする。母親も私たちも本人の気持が満足するまで待つ他なかった。そのうち帰宅途中に学校に立寄り、話をしたり、遊んでいくようになる。これを機会とし、教育相談を受けるようすすめ、週一回親子で受けるようになる。さらに担当の先生方とも話合いを持ち、S子の性格から、S子が自分で納得できるところから段階を追って教室にもどれるようにもって行くことにする。そしてS子は登校の日を自分の誕生日に決め、三週間ほどの休みを経て再び保健室登校が始まった。そして徐々に顔つきも穏やかになり、笑顔もみられるようになった。母親は相変わらず送ってはくるものの、すぐ別れられるようになっていった。

一学期の終業式の日、S子は「二学期もがんばります」というメモを残し、やっと先が見えてきたかな、という感じがした。夏休み中の母親の努力もあり、クラスの子と学校のプールにこられるまでになっていた。

9月に入り、S子は教室に行くきっかけを探しているようであった。休み時間にクラスメートがくるのを心まちし、授業中は「S子旅に出る」と言って、積極的に保健室から職員室等へ出はじめた。

他の教師もよく協力してくれ、図工の先生は水彩画を教えてくれたり、それぞれの立場に関わってくれた。そしてプールの最終日、担任の誘いでおんぶされながらプールへ入った。翌日もやはり担任におんぶしてもらい保健室から教室に行く。それ以後教室で過ごせるようになる。

最後に

書ききれない事も沢山あったが、その時々には担任も私も試行錯誤で、迷いつつ一番最良と思う事を実践してきた、というのが正直な気持である。

つまり、私がS子とのふれあいを楽しんでいたのかも知れない。

明るく行こう会 (中学校指導事例)

東京都目黒区立第一中学校長 松本 國夫

男子・現在通信制高校に在学。小学校のときから欠席がち。区立中入学後不登校になる。転入してきたが登校できず、O市に転地転校したがそれも適応せず二年時に再転入。

● 終業式

7月20日は1学期の終業式。母親と前からの打合せの通り式の終わった9時頃「今校長先生に会いに行くんだといって学校へ向いました。学生服の上下を着て、登山帽をかぶっています。よろしくお願ひします」と電話。母親の声が弾んでいる。無理もない夜型の生活を立て直して1年ぶりの登校である。教育相談所にも行けなかった子が、である。

早速、校門を出て迎える。向うから暑い陽差しの中、肥り気味の青白い少年が歩いてくる。一般生徒は学級指導中で生徒の影はない。「やあ、S君！ S君だね、大きくなったね」、「ハイ！」と元気な返事である。校長室に招じ入れ、入口には面談中の札を下げる。「ほんとに久しぶりだね、僕の顔覚えてる？」「いいえ、でも今日は校長先生に会いに来ました。他の人には会いたくありません」顔は笑っているが緊張している。しきりに両腕をかく。以下はこの再会をきっかけに、夏休中数回の面談をして、互いに2学期からの登校を試みた経過である。

再登校のきっかけを模索するS君の自作自演のシナリオと言えなくもない。

● 自己主張

話は小学校の時から教師や友人との係わりが早口で語られていった。そのあらすじは、

- ① 小学校生活ではどうにもならない怒りがある。
 - ・自分が早口で友達に分かってもらえなかったこと。
 - ・女の子は苦手で、いじめられたこと。
 - ・レバーが嫌いで体育館の落成式記念のお弁当のレバーを泣きながら食べたこと。
 - ・嫌いな給食の日は発熱して休んだこと。
- ② 中学校生活では、先生が人の気持ちを分かってくれないこと。

・担任で国語の先生は班で宿題を競走させ、リングシールを貼らせた。物で釣るのはよくない。・1分間スピーチで僕の番になって戸惑っていると、先生やみんなが「S君らしくない」などと言われ、みんなの雰囲気につぶされた。自分では明るくしているつもりなのに、先生に「暗い」といわれた。・勉強は一人でできるが、体育はコンビやチームでやる。「S君は下手だから駄目だ」といわれる。・先生は生徒のそんな気持ちを分かっていない。テストの成績を返すときでも、教師の仕事はしていても教師としての「教育」はしていない。・先生は普段生徒に接しないのに、登校拒否になると始めて関心を持つ。

● 明るく行こう会

登校拒否は先生がきっかけになるときと友達関係がある。そのため先生は無記名で、登校拒否をしたかったことがあるかなどアンケートをとって欲しい。先生は困っている生徒の気持ちを知って欲しいと訴えている。そして、悩みを持つ生徒が集って、「明行会」をつくり勉強を楽しく、学校生活を変えたい、と熱っぽく語った。

彼の指摘の鋭さと発想を受け入れ、9月1日の始業式を待ったが、結局登校できず実現しなかった。

● 中学校の現状から考える

識者の登校拒否原因の類別化は難しい。教師の影響力や責任の有無についてもケースが異なる場合単純ではない。対応についても前例の適用が通用しないことが多いのは当然である。時間がかかり、保護者と悩みを共有することから始める。また、状況に応じて進級、卒業の認定とのからみがある。

勿論、教師側の指導力を持つことと指導の限界を知り、教育相談所や医療の応援を得ることが大切で、効果は大である。

就学の義務ということで面識もない不登校生徒を転入によって抱え込む。最近の私立中学志向の中で、親の無理な願いに反抗したり、レベルに達せず区立中へ戻るケースを最近4例も経験している。担任や校長の悩みはつきない。教師はカウンセリングの技術を身につけ、人の話を聴く態度で接する。行政を含めた対応こそが急務である。

登校拒否とベッドスクール

福島県立医科大学神経精神科講師 星野仁彦

はじめに

近年、いわゆる病弱養護学校において登校拒否児が増加していることが指摘され、昭和62年の全国特殊学校校長会の調査でも、97校中55校(56.7%)に登校拒否児が在学していたと報告されています。予想されることですが、中学生が圧倒的に多かったようです。

本稿では、福島県立医科大学附属病院内の病弱養護学校(ベッドスクール)を例にあげて登校拒否児がベッドスクール内でどのような治療教育を受けているかについて説明します。

67%が原籍校へ復帰

本校は福島県立須賀川養護学校の福島医大分校として昭和56年に開校しました。現在13名の教員がおり、病院内各科(主として小児科と神経精神科)から25~30名の児童が通学しています。本校の特徴は、入院していない、外来通院中の児童でも自宅から通学できる点にあり、最近では自宅から通学する登校拒否児が増加しています。なお、本校は小学校と中学校のみであり、高等学校部はありません。

次に、実際に当院のベッドスクールに通った登校拒否児のケースを紹介します。昭和56年から63年までに当院に入院した登校拒否児のうち、ベッドスクールに通学した子どもは18名です。その内訳は、男児11名、女児7名であり、転入時の学年は、小学5年が1名、中学1年が4名、中学2年が7名、中学3年が6名です。ベッドスクール在籍期間は1ヵ月から1年9ヵ月で平均7.4ヵ月です。ベッドスクールに通学して治療教育を受けた結果、18名中12名(67%)が原籍校への復帰に成功し、6名(33%)が結局失敗に終わっています。失敗したケースを分析したと

失敗したケースを分析したところ、登校拒否のみならず神経症圏の合併症がある場合、子どもの性格の偏りが著明である場合、欠損家庭など家族病理が著しい場合などが挙げられます。

担当の医師が登校拒否児をベッドスクールに紹介する場合、まず担当医とベッドスクールの教師と(必要に応じて)家族が一堂に会して、子どもをどのように指導していけばよいかについて話し合います。例えば、初め個別指導で行うか、集団の中に入れるか、集団に入れる場合どのような点に留意するかなどについて話し合います。このような話し合いは、毎月1回のベッドスクールと担当医のミーティング、同じく月1回の登校拒否児の家族(父兄)会でも定

期的にもたれますが、その他必要に応じて、個々の登校拒否児の教師、担当医、家族の話し合い(私達はミニ・カンファランスと呼んでいます)が随時もたれます。

段階的に馴れさせることが肝心

私達が登校拒否児を治療教育する場合、基本的には次の「場面回避説」に基づいています。すなわち、登校拒否児は元来の性格(耐性の弱さ)のために、ストレスの多い学校と、過保護・溺愛的な環境である家庭との間に、心理的圧力差を感じるために学校に行けないとする説です。従って、彼らを治療する場合には、急いで学校に戻したりしないで、まず不安・緊張感の少ない場面から徐々に段階的に馴れさせて学校に復学させます。この際、ステップの一つとして私達はベッドスクールを活用しています。

実際の指導方法

次に、当病院のベッドスクールにおける登校拒否児の実際の指導方法について説明します。次の7つの段階に分けて指導しています。

- ① 受容期：完全に受容することにより、子どもとの良い関係(ラポール)を作ります。
- ② 解放期：教師との信頼関係をふまえ、内的な欲求不満や葛藤を心理的、身体的に発散させます。
①~②の時期は教育相談的に関わり、児童・生徒の関心のあるものを話題にしたり、ゲームをしたりしながらラポールを形成します。
- ③ 初期指導期：子供の自発性、自主性を育て少しずつ社会の規範へ導きます。
- ④ 自己洞察期：自分の立場を実感させ、自分は今どうすればよいかという方向性を摸索し、自己決定をさせます。
③~④の時期は教師との個別指導のみならず、他の児童生徒との集団活動に参加させて社会性や協調性を獲得させます。
- ⑤ 指導強化期：進路を自分で選択させたり、原籍校へ戻るための準備や教科学習をさせたりして、不安緊張場面を意図的に体験させます。
- ⑥ 試験登校期：登校しやすい条件を作るために原籍校への試験登校をくり返して自信をつけさせたり、友人関係の輪を広げさせます。
- ⑦ 原籍校復帰：退院して原籍校へ復帰させます。

以上ですが、これらのステップをのり越えるためには、医療、家庭、原籍校の教師との協力体制づくりが不可欠です。

Q & A - 学校保健活性化のための -

Q 登校拒否の対応としてフリースクールを設立されたそうですが、その活動の実際をお聞かせ下さい。

A.....東京シューレ主宰 奥地圭子

◆ 東京シューレ設立までの経緯と現状

登校拒否をする子供達が増え続けていることは衆知の事実であり、一向に減る気配はない。私の長男は11年前、小学生の時登校拒否になった。私は9年前に希望会という親の会で学び、7年前に「登校拒否を考える会」をよびかけ、現在1,000人の会員を有している。

活動経過の中で5年前に学校外の居場所づくりの必要性を感じ「東京シューレ」という「かけこみ寺」兼「フリースクール」のような場を設立。現在ここに通っている子は約50名、小学校1年から18歳までの子が在籍している。ほとんどが登校拒否の子ども達である。日々の経験からいって、子ども達は学校外でも立派に成長できるということを、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

◆ 問題児視することが問題

学校へ行かない子、行けない子は、だめな子、怠け、甘え、逃げ、自立心の欠如、心の病気などと問題児視する。そして学校でしか成長できないと思いこみ、学校刺戟（指導）を与え続ける場合がみられる。善意ではあろうが子ども、親にとってはよけい苦しむ事態をもたらすことが多い。

◆ ひと休みして充電しよう

学校の存在を否定するという事ではない。近代社会に学校は必要な制度であろう。ただそれを絶対視せずに、個々の子どもに合った成長の場が考えられる大事さを強調したい。学校が楽しかったり、自分に合っている子は通学するであろう。しかし何らかの意味で学校に通うことがマイナスの関係になっている子（疲労感・ストレスの蓄積、恐怖感、疎外感、挫折感、不信感等）は学校と自分の間に、とりあえず距離をとり、ひとやすみし、充電することが必要となるのである。これをまず親が理解し、受けとめ、かわらない愛情を注ぎ支えていけば、子どもは安定し、やがては家庭の中にいる状況から何らかの変化を求め、その時、学校を再選択する子もいるし、学校以外の場を求める子どももいる。

◆ 「自由・自治・個の尊重」を理念として

東京シューレは、学校外の出合いの学びの場として子ども達を受け入れてきた。はじめは不安で仲間に入れない子も友達をつくり授業や活動に参加し、自分に自信をとり戻し、次のステップにうつっていく。

その子がその子であることを最も尊重する私達は、たっぷりの時間をプレゼントする。安心し始めると自分のもっている宝物をどんどん出してくれる。シューレの理念は「自由・自治・個の尊重」である。明日から40人で2週間の広島、山口合宿に出発するため、子ども実行委員会は、今日も大わらわである。

虎の門(6)

“中2階教室”のAくん

「おはようさん」と部屋に入ると、Aくんが机に向かって社会科のまとめを懸命にしている。

自由な時間の中でAくんの場合は、朝8時には教育センターの学習室に入り、帰りは5時と自分で決めて終日学習に余念がない。

中学1年の5月より登校しなくなり、7月よりセンターの教育相談の学習部（学校へ行くためのス

テップとして、これを中2階教室と呼んでいる）へくるようになった。昼食は先生と共にとり、掃除などの手伝いをし、昼食後は積極的に体育館で運動（卓球は抜群の腕前）して汗を流す。

かぜで発熱した以外は休んだことがない。はじめの頃は、顔つき、態度ともに硬く笑もなかったAくんである。

今は登校拒否の理由を、そして学校への想いを語り、文集に感情豊かなすばらしい作文を学校へ書き送っている。この子がなぜ学校へいけないのだろう。

「もうここへこなくて大丈夫みたい」と“中2階の教室”から、友達がいっぱいいる教室へとほばたくのは、いつの日なのだろうか。

（編集委員 福原保子）

日本学校保健会だより

平成2年度(第15回)全国学校保健会 事務担当者連絡会

日 時 平成2年6月15日(金) 10:30~15:00

会 場 三菱銀行虎の門支店 会議室

司 会 事務局長 高 橋 弘 文

1. 開会のことば 副会長 加 藤 増 夫

2. あいさつ

(財)日本学校保健会 会 長 村 瀬 敏 郎

文部省体育局学校健康教育課 課長補佐

藤 井 陽 光

(梅田珠美専門職員・小松係長を紹介)

※学校保健法に基づく職員の健康診断について

副会長 矢 野 亨

3. 事業の概要説明 専務理事 和久井 健 三

(1) (財)日本学校保健会の事業について

(2) 平成2年度の事業について

(途中昼食をはさむ)

4. 協議・情報交換

(1) 本会に対する要望及び加盟団体の相互連絡・情

報交換等(群馬・千葉・鹿児島各学校保健会の活動状況等発表)

(2) 平成2年度の全国学校保健協議会のもち方と協議題作成について 常務理事 下 田 巧

(3) 平成2年度全国学校保健研究大会の紹介

那覇市教育委員会 指導部長 平 田 良 吉

(4) 事務連絡・その他

①平成元年度センター的事業の出版物の配布について 事務局 多比良 剛

②会報「学校保健」平成2年度(No.182)以降の配布について 事務局 江 川 光 恵

専門職員 梅 田 珠 美

※思春期の悩みに対する支援組織活動推進事業

※地域学校保健活動推進事業について

※発育健康診断に関する研究——健康診断の調査について

平成2年度 全国学校保健研究大会・地域ブロック学校保健大会

大会名(期 日)	場 所	主 題
第41回十二大都市学校保健協議会 〔5月20日(日)~21日(月)〕	福岡県	生活環境の変化をのりこえる強い心を育てる精神保健
第12回近畿学校保健連絡協議会 〔7月26日(木)〕	京都府	近畿ブロック連絡協議会 当面する諸問題について連絡調整と研究協議を行う 保健の推進を図る
第25回東北学校保健大会 〔8月17日(金)~18日(土)〕	福島県	「自ら進んで健康な生活のできる幼児・児童・生徒の育成を 目指して」
第40回九州地区学校保健研究協議大会 〔8月20日(月)~21日(火)〕	長崎県	健康なライフスタイルを自ら進んで確立する児童生徒の育成
第41回関東甲信越静学校保健大会 〔8月24日(金)~25日(土)〕	埼玉県	生涯にわたって自ら健康づくりを実践する子どもの育成 —— 学校・家庭・地域の連携を通して ——
第36回中国地区学校保健協議大会 〔10月4日(木)~5日(金)〕	山口県	生涯にわたる健康生活を目指して 「自ら守りぞだてるこころとからだ」
第39回北海道学校保健研究大会 〔10月6日(土)~7日(日)〕	静内町	北国の風土に根ざし、心身ともに健康で安全な生活を営み 自らをきたえ、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成をめざして
第11回東海ブロック学校保健連絡協議会 〔10月12日(金)〕	岐阜県	心身ともに健康でたくましい幼児・児童・生徒の育成
第38回北陸三県学校保健研究協議会 〔10月30日(火)~31日(水)〕	富山県	「豊かな心とたくましい体づくりをめざして」 自ら健康づくりに励む児童生徒の育成
第40回全国学校保健研究大会 〔11月15日(木)~16日(金)〕	沖縄県	豊かな心を持ち、生涯を通してたくましく生きぬく子どもの育成 —— 家庭・地域との連携を通して ——

貧血と脳貧血

その予防と指導

財日本学校保健会 編

★A5・208頁・定価1,100円<千260>

貧血の症状や調べ方、治療について専門的、医学的に解説。学校での指導や予防等についても事例を交えて紹介した。

学校環境衛生

日常点検と処置

財日本学校保健会 編

★A5・160頁・定価820円<千260>

学校環境衛生検査において照明、騒音等、教職員が計画的に行う日常点検について、その検査項目ごとに具体的に解説。

耳鼻咽喉科の学校保健

社)日本耳鼻咽喉科学会学校保健委員会 編集
★A5・288頁・定価2,580円<千310>

学校医が耳鼻咽喉科の健康診断を実施する際に必要な実務的解説と、養護教諭が事後措置の一環としての保健指導をする時の参考となるよう編集した必携書。



第一法規

〒107 東京都港区南青山2-11-17
☎(03)404-2251/FAX(03)479-1747

※定価は消費税込みです。

発行 (財)日本学校保健会 村瀬敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13 第18森ビル 電話(501)3785・0968 振替口座 東京4-98761 頒価1部100円(送料共)

育ちざかりのひと粒!

歯・骨を丈夫に……

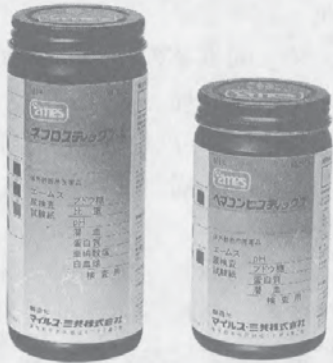


ゼリー状ドロップ剤

カワイイ肝油ドロップ

河合製薬株式会社

東京都中野区新井2丁目51番8号



学童の集団検診にお選びください。



尿中白血球反応をプラスしたエームスの尿検査試験紙

エームス尿検査試験紙(尿中pH・フツ糖・蛋白質・潜血検査用)

マコンビスティックス®

体外診断用医薬品

エームス尿検査試験紙(尿中フツ糖・比重・pH・潜血・蛋白質・亜硝酸塩・白血球検査用)

ネフロスティックス-L®

体外診断用医薬品

マイルス・三共株式会社

東京都中央区銀座1丁目9番7号 〒104 ☎(03)567-5511

販売元:

三共株式会社

東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)562-0411

JUI488S



アウトソール ミッドソール 中敷
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバースポンジ)

三層式ソール

教育(呼吸・吸圧)シューズ

日本学校保健会推薦 No. 766号

JESに学問を!

科学された教育(吸圧)シューズ!



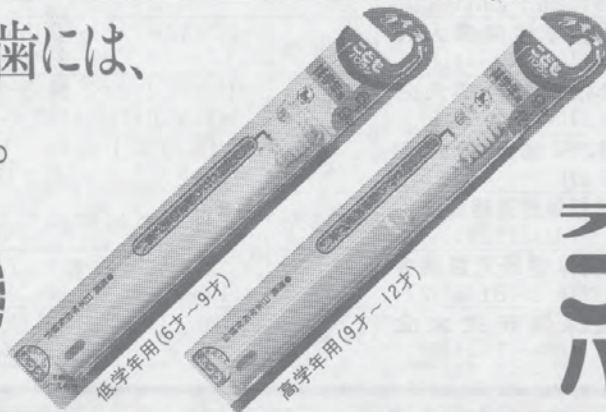
日本教育シューズ協議会 TEL(0862)72-5463

「スキ間」の多いこどもの歯には、
段差植毛のハブラシを。



段差植毛

●推薦 日本学校保健会



ライオンの
ハブラシ製品
ライオン株式会社

ライオン
こども
ハブラシ

手をブースに入れると、速乾性の消毒液が自動噴霧!

サラヤ自動手指消毒器

手についた消毒液を指先までムラなくのばせば、それで消毒OKです。

FS-3000 プラスチック製 BM-5000 オールステンレス製

日本学校保健会 推せん品

サラヤ株式会社 ☎(06)797-2525

東京サラヤ株式会社 ☎(03)472-1521

へ本会報は、拠出金と、本会への(財)日本船舶振興会助成金により作成しました。